

平成29年2月11日

各 位

一般社団法人日本ボクシング連盟
会 長 山 根 明
審判委員長 佐 藤 征 治

競技規則の追加及び変更について

用語解説 FOP（フィールド・オブ・プレイ）AOBについてはリングサイド4メートル四方の範囲の選手・セカンド・役員のみが入れるエリア。

第3条 競技者の区分

(2) 国際大会における呼称と年齢区分（男・女）

1	ジュニア	15歳～16歳
2	ユース	17歳～18歳
3	エリート	19歳～40歳

※競技者の年齢は誕生日を基準とする。

第6条 ラウンドの回数と時間

(2) 女子シニアの1競技の時間は3分3ラウンド・ジュニア2分3ラウンドとする。

第7条 採点システム

(1) AIBA認定ソフト使用の場合

- ① 5人のジャッジがリングサイドの4辺に座り採点をする。5人のジャッジの得点が競技の判決になる。(付図Cフィールド・オブ・プレイ参照)
- ⑥ 試合後ジャッジの得点と氏名は公表される。ただし、競技終了前のインターバルにはテレビ放送やインターネットを含めて途中の得点は公表しない。
- ⑦ 採点システムに不具合が生じた時は、レフリーが5人全員のスコアカードを回収してDSに渡す。DSは全員の得点を採用する。

第8条 競技の判決

(2) RSC・・・レフリー・ストップ・コンテスト

※TKOをすべてRSC（レフリーストップコンテスト）に変更する。TKOに含まれていた棄権①が独立した判決（Abandon・ABD）となる。

(8) Abandon・ABD・・・棄権

競技者が自発的に棄権するか、セカンドがリング内にタオルを投げ入れるかエプロンに上がり棄権を申し出たときは相手競技者はABD（棄権）勝ちとなる。但し、レフリーのカウント中は棄権することはできない。

第9条 ファウル

(2) ローブローへの処置

②b ローブローを打たれた競技者は最大90秒休むことができる。レフリーはこの時「タイム」の掛け声と合図を送る。この場合30秒ごとにタイムキーパーは音を送りその都度レフリーはローブローを打たれた競技者に競技再開可能を確認する。競技が再開できればローブローを打った競技者に必要であれば警告を与えてから競技が再開される。競技を再開できない場合ローブローを打たれた競技者がRSC負けとなる。

第10条 注意、警告、失格

- (6) 故意の頭突きや反則打が原因で怪我をした場合は、レフリーは相手競技者を失格にしなければならない。
- (7) 故意の頭突きや反則打を受けた競技者が怪我をしなかった場合は、反則をした競技者はレフリーから警告をされて各ジャッジの得点から1点引かれるか失格となる。
- (8) 全文削除

AIBA ではエリート男子のバンテージについて以下の規定を定めている。

エリート男子は大会実行委員会から支給された以下の規格のハンドラップを使用しなくてはならない。

・ガーゼ	最大15m×5cm	5m×10cm (ナックル保護用)
医療用テープ	最大5m×2.5cm	(ナックルにかかってはいけない) 2.5cm幅のものをそれぞれの指と指の間に使用することができる。

※国内大会においては従来のバンテージ規定を適応します。

AIBA テクニカルルール・AOB コンペティションルール (2016.12.19) 前文より引用

各国の連盟は国内大会において、ルールの根本を変えず医学や安全面への配慮を勘案し、その国の法律や状況に応じて競技規則を変更してよい。